

事故防止に向けた安全対策

【 なぎなた 】

1 競技特性

なぎなたは、「なぎなた」という長物(2m15cm～2m25cm)を繰り出し、繰り込み、持ち替え、繰り返しながら、開き足、踏み替え足等、体さばきによって相手と攻防を繰り返し、技術を競い合う競技である。その運動は前後左右の直線の運動に終わらず、円運動の加速度を利用する動作が多い。敏捷、巧緻な動作を要求され、身体的、精神的にも高度な修練が必要である。礼儀を尊び、稽古を日々継続し、積み重ねることが大切である。また、生涯スポーツとして適切な競技でもあるため、高校生は、練習する相手が幼児の時もあれば、高齢者の場合もあり得る。そのため、相手の年齢や熟練度に対応し、練習をしていくことが望まれる。相手を思いやる心や尊重する気持ちがとても大切な競技である。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 床面の整備や点検不足 防具の保管状態 なぎなたの破損 スネ当ての破損 	<ul style="list-style-type: none"> 爪の剥離 足裏の裂傷 湿疹・かぶれ・異臭 刺し傷 刺し傷 	<ul style="list-style-type: none"> 練習の前後に丁寧にモップがけをする。体育館などは各種支柱の蓋や器具取り付けの穴をビニールテープやラインテープでふさぐ。 防具使用後は、風通しの良いところに陰干し保管する。 アルコール殺菌スプレー等を使用する。 なぎなたの先端は竹製なので、ささくれができて破片が落ち、足裏に刺さる危険性がある。練習の前後に手入れを欠かさないようにする。 スネ当ての一部は竹製なので、割れてひびが入り、ささくれが落ちて、足裏に刺さる危険性がある。壊れる前に補修する。

(2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 足裏の摩擦 初心者や近間での稽古で、防具のない場所を打つ。 体さばきが悪く、態勢と打ちが一致しない場合に、捻れが生じて膝に負担がかかり捻挫する。 軸手でなぎなたを操作できず、前の手で打つために無理な力が腕や肩に掛かり筋肉痛になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 足裏の水疱 足裏の皮膚の破れ 打撲 膝関節内側副靱帯捻挫 腰痛 腕、肩の強度の筋肉痛 肩の脱臼 	<ul style="list-style-type: none"> 足の裏の皮膚が弱い初心者に多いケガである。薬品で消毒して清潔に保ち、テーピングをしておく。さらに保護のため稽古用足袋を着用するようにする。 未熟さや、相手との間がわからず接近戦が多い場面で起こりやすいので、一人ひとりの技術を向上させる。 正しい姿勢と体さばきができるように基本練習を毎日行う。 打つ意識が強すぎると、前の手で打つことになる。基本練習を積み、軸手でなぎなたを操作できるようにする。

(3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 梅雨時期の滑りやすい床 乾燥時期のなぎなたのささくれ Jアラート発令時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 骨折 刺し傷 	<ul style="list-style-type: none"> 湿気で濡れた床を乾かすよう、扇風機を回す。 稽古前の各自への注意喚起 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。